

令和2年度・令和3年度の校内研究について

1 学校教育目標の具現化 「育成を目指す資質・能力」について

<学校教育目標>

「自らすすんで学び ともに築き 豊かに生きる 岩倉の子」

<育成を目指す資質・能力>

- (1) 自らの生き方を創造する力 「創造」 **Creation**
- (2) 学びを活かし自立する力 「自立」 **Independence**
- (3) 多様性と社会的包摂を理解する力 「社会的包摂」 **Diversity & Inclusion**

<昨年度からの改善点>

児童自身が自らの生き方を見つめる「メタ認知能力」を培うために生き方探究パスポートを活用し、教科と学校行事の学びを一人一人の自己実現に結びつけるカリキュラム・マネジメントを、国語科と特別活動の特性を生かしてすすめます。

2 研究主題

なりたい自分になるために「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」
～自らの学びと成長を見つめる生き方探究パスポートを活用した
教科と学校行事をつなげるカリキュラム・マネジメントの創造～

3 研究内容と方向性

本校の研究で、育成を目指す資質・能力は、

- 自らの生き方を創造する力
- 学びを活かし自立する力
- 多様性と社会的包摂を理解する力

の3つの力です。それぞれの資質・能力を育成するために、以下の研究をすすめます。

(1) 「自らの生き方を創造する力」をつけるために

本校では、「自らの生き方を創造する力」を育成する授業（いわゆるキャリア教育）は、単に「夢を語る授業」や「将来について考える授業」と捉えるのではなく、「児童自身が今の自分（これまでの自分）を足場とし、「目的達成（なりたい自分）につなげることができる授業」であると考えています。

つまり、これからの自分をつくるには、これまでの自分を知る力（メタ認知能力）を育てることが大切であると捉えています。自らの生き方を創造するためには、自分をしっかり見つめ、自分のしたことが自分の目的に向かっているか「振り返る力（メタ認知能力）」を土台にした授業づくりをすすめることが重要です。そのために、特別活動を要として各教科・領域の学びと結びつけるカリキュラム・マネジメントとそれらを可視化するポートフォリオの研究をすすめます。

(2) 「学びを活かし自立する力」をつけるために

本校の授業づくりは、授業者のもつ「答え」を児童が求める授業ではないと定義しています。また、児童自身が追求する「答え」も1つではありません。児童が自らの「生き方」につながる「答え」を「問い」つづける姿勢を持続することが、本校で求める授業の姿であると考えています。

※これは、各教科の授業づくりでも同じ姿勢で取組み、単元構想を練ります。

児童自らが「問い」を求め続けることが、自らの学びを振り返り、これからの自分について考える「メタ認知能力」を発揮する場面であると考えます。学び続ける「目的」を「明確」にもち(何のために学ぶのか)、各教科での学びが、児童自身の「生き方」につながっているのかを常に問いかけることで、自立する力(自立に向かう力)をつけていきます。

(3) 多様性と社会的包摂を理解する力をつけるために

多様性を理解するためには、「場づくり」が大切です。特別活動、特に学校行事は、「場づくり」として多くの要素を含んでいます。しかしながら、年間指導計画の中でも多くの時間を使う学校行事について指導者(学校体制)の理解が浅く、児童の目的意識が明確でないと、豊かな学びを得ることができません。それらを可視化するために、「生き方探究パスポート」を活用し、非認知能力を可視化し、実践の場面として学級活動や各教科を位置づけて取組をすすめます。

また、多様性を理解しただけでは、「人は人、自分は自分」という消極的な多様性の理解にとどまり、人間関係形成能力を伸ばすことはできません。多様性を理解し、一人一人の特性を活かそうとする場づくりが社会的包摂の理解を深めることにつながります。特に、学校行事、集団宿泊活動で設定する「場面と役割」は、自己理解と自己肯定感の醸成、多様性と社会的包摂の理解を体験的にすすめる場として有効であり、キャリア発達をキャリア形成につなげる場として積極的かつ計画的な取組をすすめます。

4 研究の進め方

(1) 研究仮説

研究主題を具現化するために、次のような仮説を設定します。

- ①単元を通して、授業やその他の様々な場面で「学び」を振り返る時間を設定することで、自らの学びを見つめ直し(見通し)、なりたい自分や学びの目的に向かう授業づくりができる。
- ②学校行事を中核として、学級活動と各教科・領域とのカリキュラム・マネジメントをすすめ、生き方探究パスポートや行事ノート等を活用し非認知能力を可視化することにより、「学び」の意味と必然性を理解し、自らの「生き方」を問い続ける児童を育てることができる。
- ③学校生活において、多様な考えや価値観、様々な情報などから他者と協働して課題・問題を解決する力を学ぶことを重視することで、社会とつながり、社会の変化を受け止め、多様性と社会的包摂の理解を深め、学び続けていく力をつけることができる。
- ④「生徒指導の三機能」を大切にした学級づくりを学びの土台とすることで、課題意識→自己決定→自己実現から共感的な人間関係につなげることができ、誰一人取り残さない豊かな学びをめざす「焦点化指導」の目的を達成することができる。

(2) 研究の重点

上記の仮説をふまえて、4点を研究の重点とし、生き方探究パスポート(行事ノート・ポートフ

ォリオ) を活用した「学級づくり」「授業づくり」と「カリキュラム・マネジメント」をすすめる。

- ①単元を通して自ら学びを見つめ（見通し）、ともに問題解決をすすめる授業づくり。
- ②質的な豊かさを伴った持続可能な社会を創る担い手を育てため、学校行事を中核とした学級活動と各教科・領域とが互いに機能する往還的な関係を構築するカリキュラム・マネジメントと生き方探究パスポート等の活用の工夫。
- ③多様な考えや価値観、様々な情報を受容しながら、他者・他機関と協働して課題・問題を解決しようとする姿勢を、「社会」や「生き方」にむすびつける多様性と社会性包摂の理解の推進。
- ④主体的・対話的で深い学びのプロセスを可視化（記録）し、児童自身が、「力がついた」と実感できたり、教師が児童の伸びを実感できたりする評価の工夫。
- ⑤誰一人取り残さない豊かな学びを目指す焦点化指導の徹底と、個別に最適化した学びの実現。

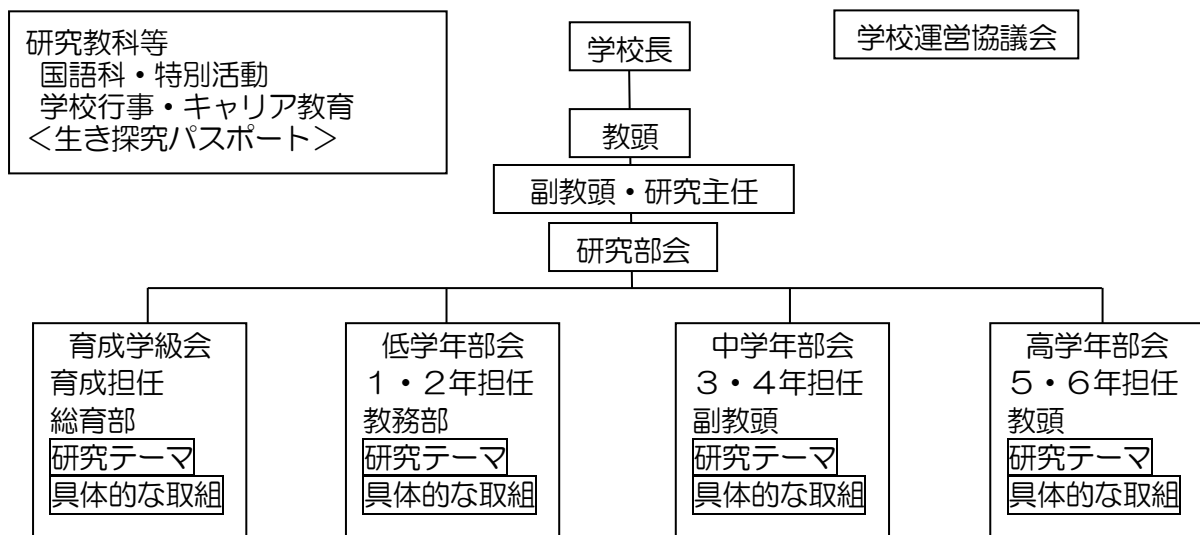
5 年間計画（2年間）

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等
令和2年 1学期	<p>岩倉北小で育成したい資質・能力「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」の定義の共有をはかり、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れ、国語科・学級活動・学校行事をはじめその他の教科等の授業を連動させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた方策を練る。</p> <p>○研究の方向についての提案と共通理解（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究成果をもとに「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」の定義を共有する。 ・「なりたい自分」になるために、「岩倉北小のつけたい3つの力」を可視化し、そのプロセスを記録するものとして生き方探究パスポートを位置づけ、活用の効果をさぐる。 ・カリキュラム・マネジメントの視点を、「岩倉北小のつけたい3つの力」を働かせる単元構想を設定とすることにより、主体的・対話的で深い学びの実現につながる学校行事・学級活動・教科等との連動をはかる。 ・児童が「安心」して学ぶことのできる場づくりとして生徒指導の三機能を生かした学級経営をすすめる。 ・児童自身の生き方探究パスポートを活用した一人一人の自己実現とキャリア形成をすすめる。 <p>○研究計画と研究仮説の構築（4月）</p> <p>○生徒指導の三機能研修会（4月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（4月）</p> <p>○「岩倉北小のつけたい3つの力」について学年部ごとの「姿」を定め、児童に提案する。（5月）</p> <p>○各学年部での研究テーマの構築（5月）</p> <p>○「岩倉北小のつけたい3つの力」を培うカリキュラム・マネジメントを単元関連図の作成で示す。（5月）</p> <p>○生き方探究パスポート、行事ノート、ポートフォリオの活用の検討</p> <p>○国語科の公開授業（7月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○児童の変容を理解するための1学期評価の検討（手段・項目・規準、6月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（7月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート①の実施（7月）</p>
令和2年 2学期	<p>○研究の整理（第1次分析）（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の取組と児童の変容についての分析 ・アンケート①の結果分析と生き方探究パスポートの活用（ポートフォリオ）の

	<p>検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の指導案検討会 <p>○国語科の公開授業（10月・11月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○運動会・生き方探究パスポートの授業公開（10月）</p> <p>○児童の変容を理解するための2学期評価の検討（手段・項目・規準，11月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート②の実施（12月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（12月）</p>
令和2年 3学期	<p>○研究発表会の開催（2月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業…全学年，学級活動（1）（2）（3） ・研究協議 ・指導助言…日本体育大学 橋谷教授 <p>○研究の整理（第2次分析）（2月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の研究における児童の変容，成果と課題の総括 ・アンケート②，評価及び研究発表会で明らかになった課題を明確にし，主体的・対話的で深い学びの実現に向けてのさらなる取組を検討する（重点的な取組の検討） <p>○児童の変容を理解するための3学期評価の検討（手段・項目・規準，2月末）</p> <p>○研究の総括（成果と課題）（3月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（3月）</p>
令和3年 1学期	<p>2年次（1年次の研究の総括を受けて）の岩倉北小でつきたい力「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」の共有をはかり，カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れ，より積極的に，国語科・学級活動・学校行事をはじめその他の教科等の授業を連動させ，主体的・対話的で深い学びの実現の具体を示す。</p> <p>○2年次の研究の方向についての重点提案と共通理解（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次の「自らの生き方を創造する力」「学びを活かし自立する力」「多様性と社会的包摂を理解する力」を共有する。 ・「なりたい自分」になるために，「岩倉北小のつきたい3つの力」を可視化し，そのプロセスを記録する生き方探究パスポートの積極的活用をすすめる。 ・1年次に整理した単元関係図について，「岩倉北小のつきたい3つの力」を働かせることを重点に，主体的・対話的で深い学びの実現につなげる学校行事・学級活動・教科等との一層の連動をはかる。 ・児童が「安心」して学ぶことのできる場づくりとして生徒指導の三機能を生かした学級経営をすすめる。 ・児童自身の生き方探究パスポートを活用した一人一人の自己実現とキャリア形成をすすめる。 <p>○2年次の研究計画と研究仮説の構築（4月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（4月）</p> <p>○「岩倉北小のつきたい3つの力」について学年部ごとの「姿」を定め，児童に提案する。（5月）</p> <p>○各学年部での研究テーマの構築（5月）</p> <p>○「岩倉北小のつきたい3つの力」を培うカリキュラム・マネジメントを視点に，単元関連図（2年次版）を作成する。（5月）</p> <p>○国語科の公開授業（6月・7月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○児童の変容を理解するための1学期評価の検討（手段・項目・規準，6月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（7月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート①の実施（7月）</p>
令和3年 2学期	<p>○研究の整理（第1次分析）（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の取組と児童の変容についての分析 ・アンケート①の結果分析と生き方探究パスポートの活用（ポートフォリオ）の

	<p>検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の指導案検討会 <p>○全国特別活動研究協議会研究大会分科会で実践発表</p> <p>○国語科の公開授業（9月～12月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○運動会・生き方探究パスポートの授業公開（10月）</p> <p>○研究発表会の実施（12月）指導助言：日体大 橋谷教授</p> <p>研究発表会を研究の成果を発表する場とし，研究の成果を問い，2年間の研究の総括を行う。</p> <p>○児童の変容を理解するための2学期評価の検討（手段・項目・規準，11月）</p> <p>○児童の変容を理解するためのアンケート②の実施（12月）</p> <p>○生き方探究パスポートの授業公開（12月）</p>
令和3年 3学期	<p>○国語科の公開授業（1月 指導助言：京都女子大 水戸部教授）</p> <p>○研究の整理・総括（2月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次の研究における児童の変容，成果と課題の総括 ・アンケート②，評価及び研究発表会で明らかになった課題を明確にし，主体的・対話的で深い学びの実現度を分析する <p>○生き方探究パスポートの授業公開（3月）</p>

6 組織体制（教職員・保護者・地域など）



※研究連携校の校内授業研究会への参加

国語科：下京渉成小 社会科：安井小 特別活動：松陽小 キャリア教育：新町小・音羽小

7 公開授業

(1) 実施予定日時（令和2年度）

令和3年2月19日（金） 14時00分～ 学級活動（1）（2）（3）各学年

(2) 内容等

- キャリア教育の要としての特別活動の授業公開※生き方探究パスポートの活用
- 研究協議会
- 指導助言（日本体育大学 橋谷教授）

(3) 生き方探究パスポートの公開授業（年間，3回）

年3回，生き方探究パスポートを活用した特別活動・学級活動の授業を公開する。